

法人名	社会福祉法人 恵春会	代表者	小林 佳之	法人・事業者の 特徴	あたたかく、やさしい介護。必要なときに、必要な介護。 みんなが集まる施設づくり。考えて行動できる職員を育てる を目標とし、 個人の思いに寄り添い、利用者さんと職員が和み、自然と笑顔になる環境を目指し介護に取り組んでいます。
事業所名	くまのしょう	管理者	米村 ゆかり		

出席者	市町村職員	知見を有する者	地域住民・団体	利用者	利用者家族	包括センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
			3							3

項目		前回の改善計画	改善に対する取組み	意見	今回の改善計画
A	事業所自己評価の確認	具体的な改善計画に基づき、職員一人ひとりが考え、実践に結び付ける。研修の機会を持ち、自らの処遇や業務の見直しを図る必要がある。	職員能力の応じた研修への参加を促す	具体的な取り組み案はできていたが実践に至っていない。職員の具体的な動きが見えにくい	毎日のミーティングを朝だけでなく、夕方にも実施することで利用者さんの情報や処遇の内容を振り返る機会を持つ。一人ひとりの職員が問題意識を持ち発言できるようにする。
B	事業所の しつらえ・環境	設備環境は整っているが、より一層の工夫や改善を目指す		外庭に池が整備され、生き物もおり感じがよい。	地域の方が寄りやすい環境作りを行う
C	事業所と地域のかかわり	施設の知名度はまだ地域に周知までには至らず。今後も地域行事に積極的に参加し地域の方と顔馴染みの関係作りを目指す。立ち寄れる環境作りも工夫が必要である	地域行事への参加の機会を持つ。清掃等の際に挨拶から始め、職員が顔見知りになることから取り組む	清掃活動されている。地域行事のお手伝いもされていることが分かる。老人会では知名度は低いので、もっと行事に出てくれば変わって来ると思う	くまのしょうカフェ再開の協働を始め、ボランティア協力の呼びかけを行い地域に開かれた施設作りを目指す。地域独自の行事にも積極的に参加する。
D	地域へ出向いて本人の暮らしを支える仕組み	地域の会議等には参加できておらず交流少ない。利用者様も散歩や行事参加のみならず、1年を通じ外に出る機会を作り交流を図りたい。登録者以外へ相談を受け相談窓口として役割を持つ必要がある。	施設の中で過ごすのではなく積極的に外に出る環境を作る。自宅で過ごす方の課題について地域の方に相談する	隈庄地区でも施設の特徴が理解されていない。行事の紹介で外出行事を取り入れていることはわかる。もっと施設の役割をPRした方がよい。	独居や高齢者世帯の利用者への支援を多面的に考える。老人会やサロンに出向き、施節のPRをする。地域の困りごとをいつでも相談できるようし支援する

E	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p>	<p>運営推進会議では事業所の事業説明のみならず、課題も協議し地域や施設だけの課題とせず、協働の意識を持ち対応すべきである。</p>	<p>事業所の取り組みや課題を提示し、対策の協議する</p>	<p>推進会議にて職員の状況は報告されており理解はでき丁寧な対応ができています。</p>	<p>管理者だけでなく、職員も会議に参加する。地域課題にくまのしょうが協力できるよう、一役を担う。職員一人ひとりが地域課題を考える機会を持つ。</p>
F	<p>事業所の防災 ・災害対策</p>	<p>地域消防団や地域住民との合同訓練や防災時の対応検討会の実施に取り組んでいきたい。</p>		<p>災害時に受け入れ可であることを周知されていない。物資の準備もあれば安心できる</p>	<p>台風や大雨の対策を講じる。災害時受け入れ可のPRを関係機関へ周知する</p>